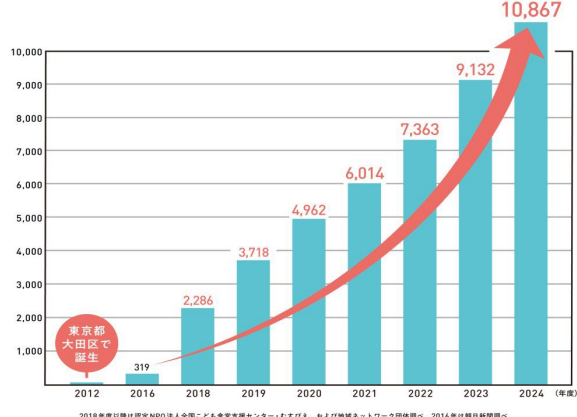
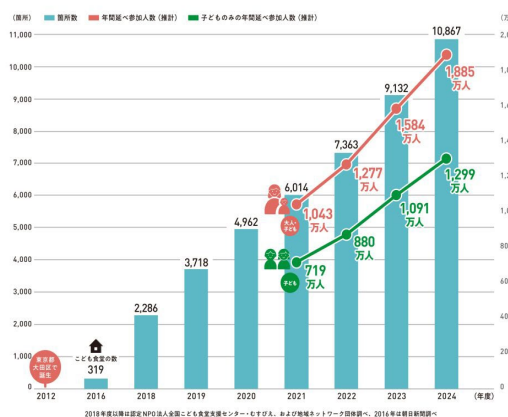




# 子どもの貧困と地域の課題を考える



## 現状

日本国内の「子ども食堂」の現状は2025年度現在、1867か所に達し、年間で「子ども食堂」を利用する人は1885万人。そのうち約1299万人が子どもたちである。子ども食堂は学校や家庭以外に、もう1つの居場所として多くの子どもたちに利用されている

＜出典：【確定値】子ども食堂数が「1万867箇所」に～24年度に日本で初めて1万箇所を超え、公立中学校数を上回る～ 2024年度子ども食堂全国箇所数調査 | 認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ (2025)

子ども食堂さくらの家  
ウェブサイト



## 概要

- ・塩屋こども食堂「さくらのいえ」：地域の子どもたちにとっての「安心できる居場所」を目指して、平成30年7月3日にスタート
- ・活動場所「さくら苑デイサービスセンター」：特別養護老人ホーム塩屋さくら苑の一施設。施設側の「地域とのつながりを大切にしたい」という思いから、毎火曜日の夕方にホールを無償で提供。準備や運営も、施設長・事務職員・生活相談員・管理栄養士を中心に職員がバックアップ。地域の活動として円滑に行えるよう協力

## 活動① 遊び

子ども食堂が17時に開き、ボランティアが食事の用意を開始。18時頃まで各児童が自由に過ごし、学生ボランティアは子どもたちがやりたい遊びと一緒にするなどしてコミュニケーションを取り、夕食を児童たちと食べる。



## 活動② 食事

18時になると料理が出来上がり、配膳の準備が行われる。児童と学生スタッフが先に手洗いを済ませ、一列に並び食事を受け取る。カレーライスが人気であり、らっきょうや福神漬けが用意されており、児童に飽きさせない工夫がされていた



## 活動③ 勉強

食事後から19時のお迎えまで遊びを再開したり、学校の宿題や勉強をする



## 活動④ 催し

季節の催し：塩屋さくら苑に入居している利用者さんと職員さんも参加  
8月は盆踊りを行った。12月はクリスマス会を予定している



## 問題

調理担当の地域住民の方が少なかった際に、学生ボランティアが調理の補助に入ることがあった。そのため、児童を見守る学生ボランティアと調理を担当する者と別れて、作業をすることがあり、毎週安定した人員体制で行えていない。

## 課題

地元コープのご協力や、地域住民からの食材寄付や賞味期限内の余剰品の提供といった小規模な「フードバンクな支援」もある。しかし、近年の物価高騰により調味料や野菜などの食費が大きな負担になり、資金面は常に大きな課題である。

子どもと直接関わるボランティアの担い手が不足しており、現在は20名前後で運営を行っている。よって、運営スタッフの拡充が課題となっている。